熊野古道でどんな旅をしたのかな？

なるほど！東紀州シリーズ④

熊野古道でどんな旅をしたのかな？

三重県

何のために旅をしたのかな？

京都に都があった遠い昔は、「人が亡くなるとその霊が南の方へいく」とか「大きな木や森、川や滝、岩などに神さまが宿る」と信じられていました。世界遺産「熊野古道」がある私たちの地域は、都から南の方角だったことや大きな木や岩がたくさんあったことから、亡くなった人の霊がいるところ、神さまがいるところだと考えられてきました。そこで人々は、熊野三山と呼ばれる熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社をめざし、「生まれ変わっても幸せになりますように」などと祈りながら険しい熊野古道を歩いたのです。これを「熊野詣」と言います。熊野の神さまは、身分や性別を問わず誰でも受け入れてくれたので「蟻の熊野詣」と呼ばれるほど多くの人が熊野古道を歩きました。

紀伊半島の西側を通る「紀伊路」は、身分の高い人（法皇や上皇たち）が歩いたのに対し、私たちの町を通る「伊勢路」は、お伊勢参りを終えた旅人や西国三十三カ所巡りの巡礼者がたくさん歩いた参詣道でした。

熊野三山の一つである那智山の青岸渡寺は西国三十三カ所巡りの第一番目の札所で、今でも多くの巡礼者が訪れます。

イラスト：古屋　暁

コラム

世界遺産の巡礼の道

世界遺産になっている巡礼の道は、1993年（平成5年）に登録されたスペインの「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」と、2004年（平成16年）に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道（熊野古道）」です。

「熊野古道」は、日本の神さまや仏さまにお参りする巡礼の道ですが、「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」は、キリスト教の巡礼道です。この巡礼道も、「熊野古道」と同じように、身分や性別を問わず誰でも受け入れてくれるので、今でも世界中から多くの人が訪れます。

サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路

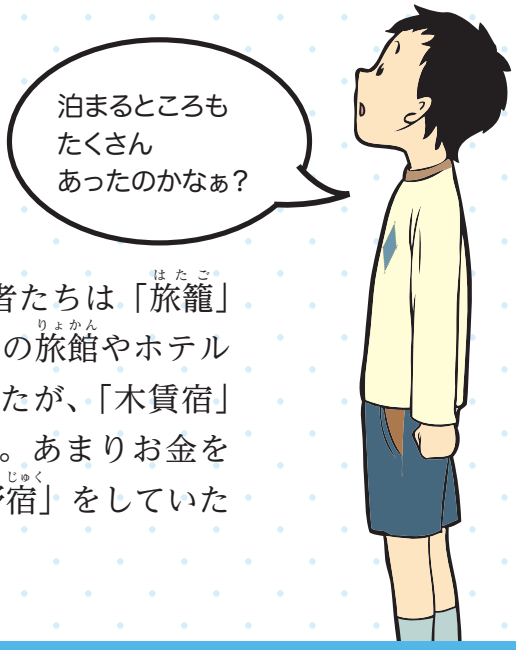
熊野古道は
祈りの道なのよ。

どんなところに泊まったの？

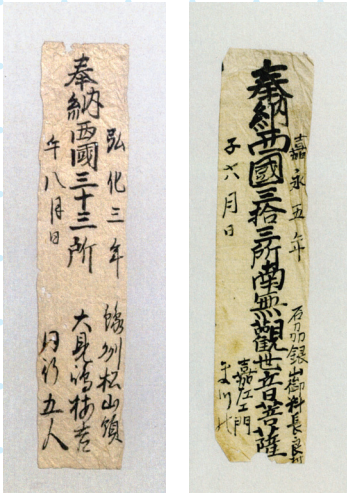
三重県立熊野古道センター所蔵

今と違って車や鉄道もなかった時代ですから、巡礼者はお伊勢さんから熊野三山をめざし、険しい峠を越えながら、５日間くらい歩き通したそうです。

そのころの熊野古道を旅する人たちは、どんなところに泊まったのでしょうか。多くの巡礼者たちは「旅籠」や「木賃宿」に泊まりました。「旅籠」では、今の旅館やホテルのようにお金を払えば食事を出してもらえましたが、「木賃宿」では、米と薪を買い、自分で食事を作りました。あまりお金を持ってない人たちは、神社や寺の軒下などで「野宿」をしていたようです。



熊野古道「伊勢路」には、「善根宿」といわれる宿がありました。「善根宿」とは、熊野古道沿いに住んでいる人が、自分の家に巡礼者を無料で泊めてあげた宿です。困っている巡礼者を助けるボランティアの心です。尾鷲市の古江町にも「善根宿」があったという記録が残っています。また、熊野市大泊町の善根宿「若山家」には、もてなしを受けた多くの旅人がお礼にと残した「納札」が5,444枚も見つかりました。「納札」には自分の住所や氏名、行き先などが記されており、当時の様子を知ることができる貴重な資料です。



納札
三重県立熊野古道センター所蔵

コラム

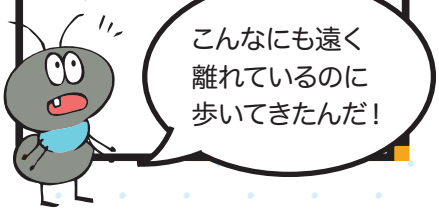
古江と長崎のきずな

江戸時代の1830年（文政13年）、肥前の国（今の長崎県）の杢助さん親子3人が西国三十三カ所巡りで古江（尾鷲市）に立ち寄り善根宿に泊まりました。

しかし、杢助さんは急病にかかり、宿の主人である和兵衛さんの必死の看病もむなしく死んでしまいました。和兵衛さんは、杢助さんのお墓をたてて手厚い供養をしました。

それから8年後、大きくなった杢助さんの子どもである伊八郎さんが、その時のお礼に古江を訪れたのです。

車も鉄道もない時代に、遠く離れた長崎県から古江まで命をかけてお礼に訪れた心温まるお話です。



どんなものを持っていたの？

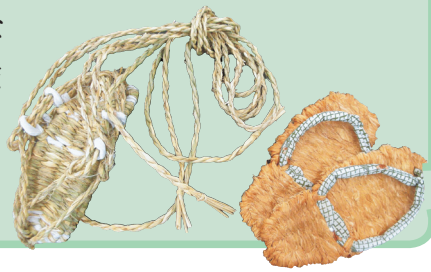
昔の人たちの旅行は、今の私たちとはずいぶん違ったものでした。私たちは、旅行先でも必要なものを買うことができますが、今のようにお店やコンビニがなかった昔はそれができなかったので、旅に必要なものはほとんど自分で持って出かけました。険しい峠を越えて行くきびしい旅ですから、少しでも荷物を軽くしようと工夫をしました。矢立や折りたたみの枕などは、そんな工夫でできたものです。

手っ甲・脚絆

そのころの服装は着物でした。旅人は険しい山道も歩くので、腕や足を守るために「手っ甲」や「脚絆」を巻きました。冬は寒さから守ってくれたことでしょう。

わらじ・わらぞうり

昔はわらで編んだ「わらじ」や「わらぞうり」をはいて旅をしました。今の靴とは違い、一日はくとぼろぼろになって、次々に代えなければなりませんでした。



三重県立熊野古道センター所蔵

ヒノキ笠・スゲ笠

今の帽子のかわりにヒノキやスゲで編んだ笠をかぶりました。これで夏の強い日差しや雨などを防ぎました。

笈・振り分け荷物

「笈」は竹や籐を編んだもので、旅に必要な荷物を入れるリュックサックとして役立ちました。「振り分け荷物」は、かごに入れたり風呂敷でつつんだ荷物を、ひもでつないで肩で担いだものです。

笈摺（おいずる・おいずり）

笈を背負った時に背中がすれないようにする袖のない上着のようなものです。巡礼者が祈りながら旅をする時に着ました。

そのほかの持ち物

通行手形、手ぬぐい、弁当箱、薬、針、矢立（筆と墨が入ったもので、今の鉛筆のようなもの）、下着、扇子、風呂敷、キセル（たばこ道具）、ろうそく、火打石、枕など。

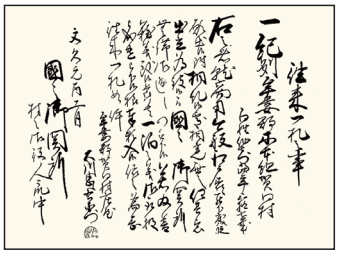
コラム

通行手形の役目

私たち日本中いつでもどこにでも旅行ができます。ところが昔の人は自由に旅ができませんでした。旅をする時には、住んでいる町の役人やお寺から「通行手形」という証明書を発行してもらわなければなりませんでした。

「通行手形」には、その人の身元や旅の目的、関所を通る許可、病気など困ったことがおきた時のお願いなどが書いてありました。旅をする人は必ず「通行手形」を持っていなければ、旅ができませんでした。

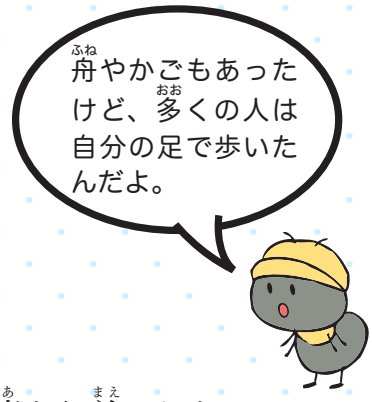
今、私たちが海外旅行をする時に持っていくパスポートのように大事なものでした。



牟婁郡賀田（現在の尾鷲市賀田町）の庄屋が出した通行手形

昔の旅行はとてもたいへんだったんだよ。

道中は楽しい旅だったの？



車や鉄道がない昔の旅は、自分の足で歩いて行くのが当たり前でした。体の調子が悪くなったり、天気が悪くなったりした時は、予定どおりにはいかなかったことでしょう。また、山や海岸など険しい道を歩く旅ですから、危険もいっぱいありました。泥棒や追いはぎに出くわすこともあり、命がけの旅でもありました。

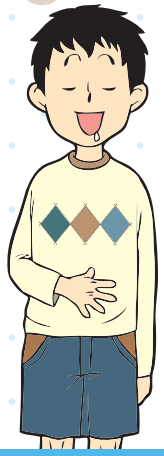
熊野市と御浜町には熊野古道「浜街道」があります。「浜街道」は海岸沿いを通り、志原川と尾呂志川の難所があります。当時は橋もなく、波の引き間を利用して河口の浅瀬を走って渡りましたが、時には波にのまれて亡くなった人もいました。今もその人たちを祀る巡礼供養碑があります。

浜街道（七里御浜）と旅で亡くなった人を祀る巡礼供養碑

そんな危険な旅でしたが、旅ならではの楽しみもありました。それは食事です。険しい峠を登り切りほっとして食べる峠茶屋のおもちなどは、さぞかしおいしかったことでしょう。また、私たちが住む紀州地域は昔から海の幸が豊富です。幕府巡検使（国や県の役人）には、クルマエビやマツタケの焼き物、タイのはんぺい、スズキの刺身、タイ汁など豪華な食事が出されていたそうです。

巡礼者など一般の旅人には、麩と豆のみそ汁や千切りダイコン、ゼンマイ・シイタケの煮物などが出され、イワシの塩焼きなどは別に買って食べていたようです。

幕府巡検使に出された豪華な食事



巡礼者など一般の旅人に出された食事

三重県立熊野古道センター所蔵

コラム

道中の茶屋

熊野古道の険しい峠をいくつも越えて歩く旅人の楽しみは、見知らぬ土地を訪ねたり、「茶屋」でお茶を飲んだり、お菓子を食べて疲れた体を休めることでした。

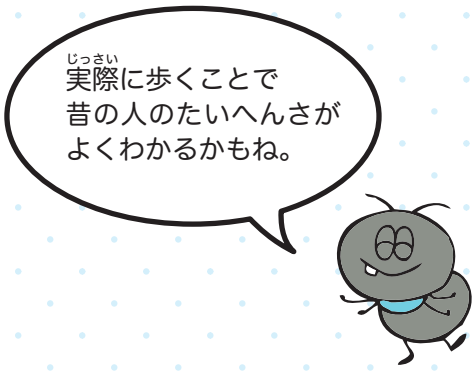
馬越峠には「馬越茶屋」、八鬼山には「中茶屋」（荒神茶屋）や「十五郎茶屋」など、熊野古道それぞれの峠には茶屋があり、巡礼者や旅人にとって心安らぐ休憩所になっていたようです。

茶屋ではうどんやおでん、おもちなどを食べることができました。また、旅に必要なわらじやわらぞうりなども売られていました。

今はどんな旅が行われているの？

熊野古道やその周辺の地域には、都会にはない自然がいっぱいです。現在、熊野古道には全国からたくさんの人がやってきます。旅の目的はいろいろです。熊野三山をめざす人、癒しの場として古道沿いの自然を楽しむ人、新鮮な海の幸や山の幸を求める人などがやって来ます。

高齢の方が多いのですが、最近は若い人たちも増えてきています。また、皆さんのように熊野古道や世界遺産に興味があり、東紀州の歴史や昔の旅人の様子を学習する人も多くなってきました。



三重県立熊野古道センター

ツヅラト峠からのながめ

馬越峠の石畳

松本峠からのながめ

昔の記録によると、1800年ごろ（江戸時代の終わり）にお伊勢さんから熊野三山をめざした旅人は、1年間で3万人にものぼったそうです。何日もかけて自分の足で峠を越えて歩き通す旅ですから、とても多い数だといえます。

今は昔のような旅ではなく、車やバス、鉄道で近くまで来て1つか2つの峠を越える人がほとんどです。平成22年には、ツヅラト峠では約3万人、馬越峠では約5万人、松本峠では約3万人が峠を越えました。熊野古道伊勢路全体では、約28万5千人が峠を越えました。熊野古道を歩く人は年々増えています。

みなさんも世界の宝物である世界遺産「熊野古道」をぜひ歩いてみてください。きっといろいろな発見があると思います。

熊野古道でどんな旅をしたのかな？

わたしたちの町にある世界の宝もの「熊野古道」。昔の人々や地域の人々が大切に守ってきたわたしたちの宝ものです。この「熊野古道」をいつまでも大切に伝えていくために、次のことは必ず守りましょう。

- ☑ 道であった人には笑顔であいさつをしましょう。
- ☑ ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- ☑ 植物・動物などの採集はやめましょう。
- ☑ 道からはずれないようにしましょう。
- ☑ 火遊びは絶対しないようにしましょう。

監修　三重県立熊野古道センター
発行　三重県政策部東紀州対策局
東紀州対策室
年月　2012 年 1 月発刊

〒 514-8570　三重県津市広明町 13 番地
TEL 059-224-2193　FAX 059-224-2418

本書掲載の文章、写真およびイラスト、図等の無断転載、無断引用、二次配布についてはこれを固く禁じます。